

トルコ語の疑問文—日本語との対照的研究にむけて—

吉村 大樹*

0. はじめに

- トルコ語と日本語は形態論・統語論的にきわめて類似した構造をしている
- 疑問文の構造（とりわけ yes-no 疑問文の構造）：トルコ語には様々に日本語とは異なる現象が観察される
 - ✓ トルコ語には疑問接語が文中に生起することがあり、日本語の「か」と比較してかなりの程度に自由である
 - ✓ WH 疑問文では、（エコー疑問文を除いて）WH 詞と疑問接語は共起しない
- 本発表では音韻・形態、統語、意味の各レベルからトルコ語における疑問文のふるまいについての特徴をまとめ、日本語疑問文との対照研究における問題点を整理する

1. 現代トルコ語の概略

- チュルク諸語南西語群（アゼルバイジャン語、トルクメン語等）
- 母音調和効果：接辞等の膠着時、直前の音節の音韻的特徴（[±前舌][±円唇][±高低]）に調和する

(1) a. gün-ler / kitap-lar (/e//a/の対立)

日-複 本-複

「日々」「(複数冊の)本」

b. ben-im ad-im / ev-im / göz-üm / kol-um (/i//i//y//u/の対立)

私-属格 名前-1単 家-1単 目-1単 腕-1単

「私の名前／家／目／腕」

- 形態論：典型的な膠着型言語、接辞の膠着は派生<屈折<接語の順が一般的

(2) Çeko-slovakya-lı-laş-tır-a-ma-dık-lar-ımız-dan mı-sınız?

チェコスロヴァキア-J派生-V派生-使役-不可能-否定-分詞-複数-1単-奪格 Q-2単

「(あなたは)われわれがチェコスロヴァキア人化できなかったうちの一人ですか？」

※疑問接語と直前の部分とは正書法の上では分かち書きするが、母音調和効果は保持されている

- 主要部・依存語の二重標示言語

(3) çocuğ-un baba-sı

子ども-属格 父-3単

「(その)子どもの父親」

- 語順：依存語<主要部（強い主要部後置傾向）

(4) a. sevimli çocuk (Adj. + N)

かわいらしい 子ども

「かわいらしい子ども」

b. çok pahalı (Adv. + Adj.)

とても 高価な

「とても高価な」

c. Ben Japonca-yla uğraş-ıyor-um (N(subj.) + N(comp.) + V)

私(主格) 日本語-具格 関わる-進行-1単

* AA 研共同研究員／龍谷大学他非常勤講師。E-mail: a13277@mail.ryukoku.ac.jp

「(私は) 日本語に関わっています (日本語をやっています)」

- 従属節：従属節の動詞は「準動詞化」するパターンが支配的、主節の述語に先行

(5) (Göksel and Kerslake 2005: 90-1)

a. [Sorun yarata-acağı] belli.

問題 生み出す-未来 明らかな

「(彼/彼女が) 問題を起こすであろうことは明らかだ」

b. [Sorun yarat-an] kuruluş-lar uyar-ıl-dı.

問題 生み出す-分詞 組織-複 警告する-受身-過去

「問題を起こした組織は警告を受けた」

c. [Sorun yarat-maktansa] sonuç-lar-ı kabullen-di.

問題 生み出す-副動詞形 結果-複-対格 受け入れる-過去

「問題を起こすことを選ばず、(彼/彼女は) (その) 結果を受け入れた」

2. トルコ語の疑問文

2.1 yes-no 疑問文

2.1.1 文末（動詞複合形式内部）に疑問接語が生起する場合

- 疑問接語 mI(mi, mı, mü, mu)の生起。yes-no 疑問文は mIを生起させることで明示する¹

(6) Sen yarın İstanbul-a gid-ecek mi-sin?

君 明日 イスタンブル-与格 行く-未来 Q-2 単

「君は明日イスタンブルに行く予定ですか？」

- 動詞の時制/アスペクト（/ムード）の種類により、人称語尾形式との相対的位置が異なる

(7) a. Sen geçen hafta İstanbul-a git-ti-n mi? /*git-ti mi-n?

君 先週 イスタンブル-与格 行く-過去-2 単 Q /行く-過去-Q-2 単

「君は先週イスタンブルに行ったの？」

b. Sen her sabah kahvaltı yap-ıyor mu-sun? /*yap-ıyor-sun mu?

君 毎朝 朝食 する-進行 Q-2 単 / する-進行-2 単 Q

「君は毎朝朝食をとっていますか？」

- ✓ 過去形・仮定形の場合は [人称語尾 < 疑問接語]、未来形、現在進行形等の場合は [疑問接語 < 人称語尾]
- ✓ z 系列の人称語尾は接語代名詞(pronominal clitic)、その他の系列の人称語尾は屈折接辞(inflexional suffix)(cf. Good and Yu 2005)

系列/人称・数	k 系列	z 系列	希求法	命令法
1 人称単数	-m	-(y)Im	-(y)EyIm	--
2 人称単数	-n	-sIn	-(y)EsIn	(null), -sEnE (familiar) -(y)In, -(y)InIz, -sEnIzE (formal)
3 人称単数	--	--	-sIn	-sIn
1 人称複数	-k	-(y)Iz	-(y)ElIm	--
2 人称複数	-nIz	-sInIz	-(y)EsInIz	-(y)InIz
3 人称複数	-lEr	-lEr	-sInlEr	-sInlEr

表 1: トルコ語における人称語尾の系列

- 複合動詞時制の場合: TAM 接辞 1 < Q < 助動詞 < TAM 接辞 2 < 一致 (人称)

¹ 以下、疑問接語の代表形として mI という表記を用いることにする。この形式の母音部分は、直前の語の最終音節の音韻的特徴 ([±前舌] [±円唇]) によって決定される。

- (8) a. git-ti-y-di-m
行く-過去-助動詞-過去-1 単
「(その時) 私はもう行ってしまっていた」
b. git-ti mi-y-di-n? / *git-ti-y-di-n mi?
行く-過去 Q-助動詞-過去-2 単 / 行く-過去-助動詞-過去-2 単 Q
「(その時) 君はもう行ってしまっていたの？」

2.1.2 文中に生起するトルコ語の疑問接語

- mI は文末だけでなく、文中にも生起する：フォーカスの限定、話し手が特定の要素だけを聞き手に質問したいときに用いる

- (9) a. Ali kitab-ı Ayşe-ye ver-di mi?
アリ 本-対格 アイシェ-与格 与える-過去 Q
「アリは(その)本をアイシェにあげたの？」
b. Ali kitab-ı Ayşe-ye mi ver-di?
アリ 本-対格 アイシェ-与格-Q 与える-過去 Q
「アリはその本をアイシェにあげたの？」
c. Ali kitab-ı mı Ayşe-ye ver-di?
アリ 本-対格 アイシェ-与格 与える-過去 Q
「アリはその本をアイシェにあげたの？」
d. Ali mi kitab-ı Ayşe-ye ver-di
アリ-Q 本-対格 アイシェ-与格 与える-過去
「アリが(その)本をアイシェにあげたの？」

※報告者が知る限り、他のチュルク諸語では文中への疑問接語の生起は見られないと言われている。疑問接語は文末(述語部分)にのみ生起し、特定の構成素に韻律的なフォーカスを与える(e.g. ウズベク語)

- yes-no 疑問の(疑似)分裂文による表現は、埋め込み節と主節述語名詞の間にポーズを置くことで一応可能²→mI の文中生起とどちらがより多用されているか?³

- (10) a. Ali-nin kitab-ı ver-diğ-i, Ayşe mi? / *Ayşe-ye mi?
アリ-属格 本-対格 与える-分詞-3 単 アイシェ Q / アイシェ-与格 Q
「アリが本をあげたのはアイシェですか？」
a'. Ali-nin kitab-ı ver-diğ-i kişi Ayşe mi?
アリ-属格 本-対格 与える-分詞-3 単 人 アイシェ Q
「アリが本をあげた人はアイシェですか？」
b. Ali-nin Ayşe-ye ver-diğ-i, kitap mı?
アリ-属格 アイシェ-与格 与える-分詞-3sg 本 Q
「アリがアイシェにあげたのは本ですか？」
b'. Ali-nin Ayşe-ye ver-diğ-i şey kitap mı?
アリ-属格 アイシェ-与格 与える-分詞-3 単 もの 本 Q
「アリがアイシェにあげたのは本ですか？」
b''. *Ali-nin Ayşe-ye ver-diğ-i şey kitab-ı mı?
アリ-属格 アイシェ-与格 与える-分詞-3 単 もの 本-対格 Q
(意図した読み:「アリがアイシェにあげたのは本をですか?」)

² (10)の例文を判断して下さったトルコ語インフォーマント A 氏(匿名:男性)に謝意を表す。

³ トルコ語には it や there などの虚辞が存在しないため、(10)に挙げられたものも含めたあくまで疑似分裂文であると Kornfilt (1997: 192-3)で指摘されている。

c. Kitab-ı Ayşe-ye ver-en^{??}(,) Ali mi?
 本-対格 アイシェ-与格 与える-分詞 アリ Q
 「(その) 本をアイシェにあげたのはアリですか？」

- 疑問接語は複文の内部にも生起可能(e.g. (11b)) : 疑問のスコープの広さは？

(11) a. Aynur [Zehra-yla buluş-tuk-tan sonra] mı çocuk-lar-ı
 アイヌル ゼフラ-共格 会う-分詞-奪格 後 Q 子ども-複数-対格
 okul-dan al-dı?
 学校-奪格 得る-過去

「アイヌルはゼフラと会ってから子供たちを学校で拾ったのですか？」

b. Aynur [Zehra-yla mı buluş-tuk-tan sonra] çocuk-lar-ı
 アイヌル ゼフラ-共格 Q 会う-分詞-奪格 後 子ども-複数-対格
 okul-dan al-dı?
 school-Abl pick-up-Past:3sg
 学校-奪格 得る-過去

「アイヌルはゼフラと会ってから子供たちを学校で拾ったのですか？」

(Göksel and Kerslake 2005:293)

- 疑問のスコープが従属節内部のみの場合(cf. Hayasi 1984)

(12) a. [Fatma-nın İstanbul-a gid-ip git-me-diğ-i]-ni bil-mi-yor-um.
 Fatma-Gen İstanbul-Dat go-Ger go-Neg-Opc-3sg-Acc know-Neg-Prog-1sg
 「ファトマがイスタンブルに行ったかどうか、私は知らない」

b. [Fatma İstanbul-a git-ti mi] bil-mi-yor-um.
 Fatma-Nom İstanbul-Dat go-Def. Past Q know-Neg-Prog-1sg
 「ファトマがイスタンブルに行ったか、私は知らない」

c. [Fatma İstanbul-a git-ti mi git-me-di mi]
 ファトマ イスタンブル-与格 行く-過去 Q 行く-否定-過去 Q
 bil-mi-yor-um.
 知る-否定-進行-1 単

「ファトマがイスタンブルに行ったか行かなかったか、私は知らない」

- (11)(12) : 疑問のスコープの問題。スコープが従属節内部のみか、文全体にかかるか
- 従属節内部に疑問接語が生起しつつ、スコープが文全体にわたる場合と従属節のみにとどまる場合とがある。統語構造は互いに異なっているか？異なるとすればどのように記述するのがよいか？

2.2 WH 疑問文

- WH 詞 : ne 「何」、kim 「誰」、ne zaman 「いつ」、nerede 「どこで」、nasıl 「どのように」、hangi 「どの」、kaç 「いくつ」等
- WH-in-situ: 「WH 詞は元位置にとどまる」。すなわち、文頭に生起するなどの統語的操作は義務的でない

(13) a. Sen ne iç-er-sin (*mi)?
 2 単 何 飲む-中立-2 単 (Q)
 「君は何を飲みますか？」

b. Kim İstanbul-a gid-ecek?
 誰 イスタンブル-与格 行く-未来
 「誰がイスタンブルに行く予定ですか？」

- c. Serkan ne zaman geri dön-dü?
セルカン 何時 戻って 帰る-過去
「セルカンはいつ戻ってきたの？」
- d. Pardon, Osaka Üniversite-si nere-de?
失礼 大阪 大学-3 単 どこ-位格
「すみません、大阪大学はどこですか？」
- e. Semra-nın ev-i-ne nasıl gid-il-iyor?
セムラ-属格 家-3 単-与格 どのように 行く-受身-進行
「セムラの家にはどうやって行きますか？」 (Göksel and Kerslake 2005: 303)
- f. Sınıf-ta kaç kişi var?
教室-位格 いくつ 人 いる
「教室には何人いますか？」

● **WH 疑問文では,WH 詞と疑問接語は共起しない**

- ✓ 共起する場合、疑問接語は WH 詞の直後（または WH 詞が述語の直接的な構成素でない場合は、その構成素の主要部の直後）に生起し、文の読みはエコー疑問文としてしか解釈されない(Kornfilt 1997)

- (14) Kim Türk? / *Kim Türk mü? / Kim mi Türk?
誰 トルコ人 誰 トルコ人 Q 誰 Q トルコ人
「誰がトルコ人なの？」 / 「誰がトルコ人かって（言ったのか）？」

● （疑似）分裂文による WH 疑問文は一応存在する。ただし、yes/no 疑問文の場合と同様、必須の統語的操作ではない

- (15) a. Dün sinema-ya gid-en, kim-di? (Kornfilt 1997: 29)
昨日 映画館-与格 行く-分詞 誰-過去
「昨日映画館に行ったのは誰ですか？」
- b. Kim dün sinema-ya git-ti?
誰 昨日 映画館-与格 行く-過去
「誰が昨日映画館に行ったのですか？」
- c. Ahmed-in dün sinema-da gör-dük-leri, kim-(ler)-di?
アフメト-属格 昨日 映画館-位格 見る-分詞-3 複 誰-（複数）-過去
「アフメトが昨日映画館で見たのは誰（と誰）でしたか？」 (Kornfilt 1997: 29)
- d. Ahmet dün sinema-da kim-(ler)-i gör-dü?
アフメト 昨日 映画館-位格 誰-（複数）-対格 見る-過去
「アフメトは昨日映画館で誰を見ましたか？」

● 複文における WH 詞のスコープ

- (16) a. Ali [ne-yi Ayşe-nin oku-duğ-u]-nu bil-mi-yor-muş.
アリ 何-対格 アイシェ-属格 読む-分詞-3 単-対格 知る-否定-進行-不定過去
「アリは何をアイシェが読んだか知らないらしい」 (Uzun 2000: 311)
- b. Ne-yi [Ali Ayşe'nin oku-duğ-u]-nu bil-mi-yor-muş?
アリ 何-対格 アイシェ-属格 読む-分詞-3 単-対格 知る-否定-進行-不定過去
「アリはアイシェが何を何を読んだか知らないって？」 (Uzun 2000: 311)
- (17) [Fatma-nın nere-ye git-tiğ-i]-ni bil-mi-yor-um.
ファトマ-属格 どこ-与格 行く-分詞-3 単-対格 知る-否定-進行-1 単
「ファトマがどこへ行ったか、私は知らない」

3. 理論上・記述上の諸問題

3.1 トルコ語独自の問題

- 音韻・形態：mI が直前の語の最終音節の母音に対して母音調和することをどう説明するか
- 形態：mI は直前の語の一部として説明されるべきかそれとも独立した語形とみなされるべきか
- 発話行為と形態・統語論が相互に関連する問題(?)：(18)の話者 B の発話における *gidiyorum mu* は形態（・統語）的には許容されないはず(cf. だが、実際には文法的であるとされている(Kornfilt 1997: 32))

(18) Speaker A: *Sinema-ya gid-iyor-um.*

映画館-与格 行く-進行-1 単

「映画館に行ってきます」

Speaker B: *Sinema-ya gid-iyor-um mu de-di-n?*

映画館-与格 行く-進行-1 単 Q 言う-過去-2 単

「『映画館に行ってきます』って言ったの？」(Kornfilt 1997: 33)

- 統語：
 - ✓ mI の直前の語、および述語動詞との統語関係（主要部は何か、どこにあるか）
 - ✓ 「Q 要素の移動」という考え方について(cf. Hagstrom 1999:1)：トルコ語でも疑問接語が節の内部(*clause-internal position*)から周縁部(*clause-periphery*)に移動している、とする主張がある(Aygen 2007, Yücel 2012)⁴→NP が移動すると考える分析と対立？
 - ✓ mI の生起位置とフォーカス位置のミスマッチについて。
- 意味（+発話行為）：mI によってどこが焦点化されるか。焦点の違いをどのように記述・説明するか。また、スコープの広さをどのように説明するか

3.2 日本語との対照について

- トルコ語の疑問接語(mI)と日本語の「か」の音韻・形態的ステータスの対照
 - ✓ mI はトルコ語における典型的な「接語」(*clitic*; Erdal 2000, Sezer 2001 他)：統語的には他の語と独立した単位、形態論上は接語形式と直前の語形から形成されるより大きな語形の一部→母音調和現象が直前の語から継続していることを説明する必要がある
 - ✓ 「か」も疑問接語？→形態・統語的な「サイズ」の議論？
 - 統語的な生起の制約：
 - ✓ トルコ語では、疑問接語の生起に動詞形式の制約はない。ただし、動詞のテンス・アスペクト形式の種類により人称語尾との相対的位置をどのように説明するか
 - ✓ 一方「か」が生起するときは、動詞形式に制約がかかる場合がある
- (19) 明日のパーティーには誰が来る {*か/の}。
- ✓ 統語的位置とスコープとの関連：「『か』のスコープはそれが付加されている動詞・形容詞・『名詞/形容動詞+だ』に限られる」

⁴ Aygen (2007)はこの Hagstrom (1999)の考えを踏まえて、トルコ語では Q 移動は LF レヴェルで行われる潜在的移動(*covert movement*)であり、yes-no 疑問文またはエコー疑問文の時にのみ顕在化するという考えを提示している。最近の研究でも、Yücel (2012)がカートグラフィーを利用する立場を新たに導入しつつ、Aygen (2007)の考え方になっている。また、文中(NP/PP)に生起するときは、N または P の最大投射の姉妹位置に基底生成されるが、文末に生起するときは、V⁰ の姉妹位置に接辞として付加されるとする、Besler (2000)による提案もある。

- (20) a. ??君は一九二〇年に生まれたか。
 a'. 君は [一九二〇年に生まれたの] か。
 b. ??君はこの時計をパリで買ったか。
- スコープと焦点
 - ✓ 日本語では「かどうか」が使用されるが、トルコ語では疑間接語や WH 詞を使用せずに選択的な間接疑問文を表すことが可能(12a)(20b)
- (21) a. [お父さんが来年家を建てるかどうか]、私は知りません。
 b. [Baba-m-in gelecek yıl ev yap-ıp yap-ma-yacağ-ı]-nı
 父-1 単-属格 来年 家 作る-副 作る-否定-未来-3sg-対格
 bil-mi-yor-um.
 知る-否定-進行-1 単
- ✓ 前掲(11)の例：mI が従属節内部に生起している場合。フォーカスは特定の語（または構成素）、しかし疑問のスコープは文全体にかかる→日本語にはない現象？
- スコープの広さの表示
 - ✓ 日本語の疑問のスコープは、それが付加されている動詞・形容詞・「名詞／形容動詞+だ」に限られる（田窪 2011、金水 2013）
 - ✓ (11a), (16a,b)のトルコ語の例：日本語の疑問のスコープの説明がそのまま適用できない。では、どのように説明するか？
 - ✓ 日本語の「なぜ」とトルコ語の *neden/niye/niçin*（「なぜ」）の対照：
 - ◇ 日本語の「なぜ・どうして」による疑問詞疑問文は基本的に「の」が必須(cf. 野田 1995)
 - ◇ トルコ語では「なぜ」に相当する WH 詞(*neden/niye/niçin*)が用いられる場合でも、述語形式はそれに呼応する「の」のような特定の形式があるわけではない。また、*neden/niye/niçin* 等の疑問詞と mI も、やはり（エコー疑問文を除けば）共起しない
- (22) a. なぜこのプロジェクトに参加した [の/??ø] ?
 b. *Neden bu proje-ye katıl-dı-n?*
 なぜ この プロジェクト-与格 参加する-過去-2 単
- 発話行為と疑問文の統語構造との関連
 - ✓ エコー疑問文の対照は可能？→日本語のエコー疑問文もプロジェクトの守備範囲？
- (23) Speaker A: *Sinema-ya gid-iyor-um.*
 映画館-与格 行く-進行-1 単
 「(私は) 映画館に行きます」
 Speaker B: *Sinema-ya mı de-di-n?*
 映画館-与格 Q 言う-過去-2 単
 「映画館について言ったの？」(Kornfilt 1997: 32)
- (24) Speaker B: *Nere-ye de-di-n?*
 どこ-与格 言う-過去-2 単
 「どこについて言ったの？」(Kornfilt 1997: 34)

参考文献

- Aygen, Gülşat (2007). Q-particle. *Journal of Linguistics and Literature* 4-1, Mersin University, 1-30.
- Besler, Dilek (2000). *The Question Particle and Movement in Turkish*. Unpublished MA thesis,

Boğaziçi University.

- Dryer, Matthew S. (2005). Polar questions. In Haspelmath M. (*et al.*), *The World Atlas of Language Structures*. Oxford: Oxford University Press.374-377.
- Göksel, Aslı and Kerslake, Celia (2005). *Turkish: A Comprehensive Grammar*. New York: Routledge.
- Good, Jeff and Yu, Alan (2005). Morphosyntax of two Turkish subject pronominal paradigms. In Lorie Heggie and Francisco Ordóñez (eds.) *Clitic and Affix Combinations*. Amsterdam: John Benjamins. 315-341.
- Hagstrom, Paul (1999). The movement of question particle.
<http://www.bu.edu/linguistics/UG/hagstrom/papers/NELS30-Qmmt-handout-12.pdf> (5 December, 2013)
- Hayasi, Tooru (1984). The non-coocurrence of the interrogative word and particle in Turkish. *Asian and African Linguistics* **13**. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa. 61-74.
- 金水敏 (2013) 「日本語疑問文研究の課題」. 「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」 (於: 国立国語研究所) 研究集会発表資料.
- Kornfilt, Jaklin (1997). *Turkish*. London: Routledge.
- 野田春美 (1995) 「～ノカ?、～ノ?、～カ?、～ø?」 宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法 (上) 単文編』. 東京: くろしお出版.
- 佐藤久美子 (2013) 『小林方言とトルコ語のプロソディー——型アクセント言語の共通点一』. 福岡: 九州大学出版会.
- 田窪行則 (2011) 『日本語の構造—推論と知識管理—』. 東京: くろしお出版.
- Uzun, N. Engin (2000). *Evrensel Dilbilgisi ve Türkçe (Universal Grammar and Turkish)*. İstanbul: Multilingual.
- Yoshimura, Taiki (2012). The position of the interrogative clitic in Turkish: a Word Grammar account. In Kincses-Nagy, Éva and Biacsi, Mónika (eds.). *The Szeged Conference. Proceedings of the 15th International Conference on Turkish Linguistics held on August 20-22, 2010 in Szeged*. Szeged: University of Szeged. 593-602.
- Yoshimura, Taiki (2013). The Position of the Interrogative Clitic in Turkish Revisited: A Word Grammar Account. In Yaguchi (*et al.*). *Kyoto Working Papers in English and General Linguistics* Volume **2**. Tokyo: Kaitakusha. 45-72.
- Yücel, Özge (2012). What moves where under Q-movement? In Kincses-Nagy, Éva and Biacsi, Mónika (eds.). *The Szeged Conference. Proceedings of the 15th International Conference on Turkish Linguistics held on August 20-22, 2010 in Szeged*. Szeged: University of Szeged. 603-616.
- Zimmer, Karl (1998). The case of the errant question marker. In Johanson, Lars (ed.). *The Mainz Meeting: Proceedings of the Seventh International Conference on Turkish Linguistics*. Harrassowitz Verlag, Wiesbaden: 478-481.